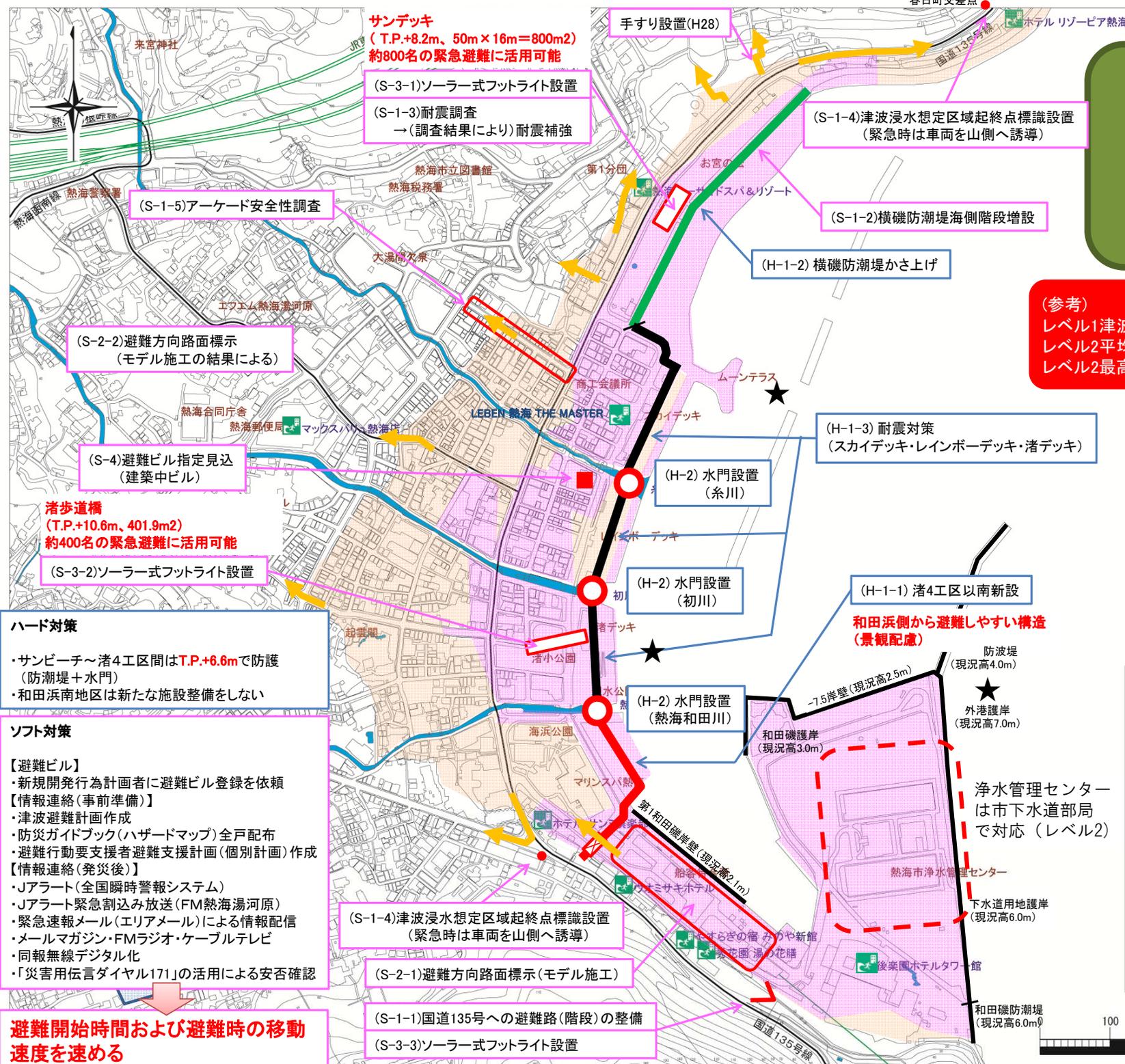


熱海地区 津波対策 平面図

(参考)
 レベル1津波に対する必要堤防高 : T.P.+ 7.0m
 レベル2平均津波高 : T.P.+ 9.0m
 レベル2最高津波高(★) : T.P.+10.0m



サンデッキ
(T.P.+8.2m、50m×16m=800m²)
約800名の緊急避難に活用可能

(S-3-1)ソーラー式フットライト設置
(S-1-3)耐震調査
→(調査結果により)耐震補強

手すり設置(H28)

(S-1-4)津波浸水想定区域起終点標識設置
(緊急時は車両を山側へ誘導)

(S-1-5)アーケード安全性調査

(S-1-2)横磯防潮堤海側階段増設

(H-1-2)横磯防潮堤かさ上げ

(S-2-2)避難方向路面標示
(モデル施工の結果による)

(S-4)避難ビル指定見込
(建築中ビル)

(H-1-3)耐震対策
(スカイデッキ・レインボーデッキ・渚デッキ)

(H-2)水門設置
(糸川)

渚歩道橋
(T.P.+10.6m、401.9m²)
約400名の緊急避難に活用可能

(S-3-2)ソーラー式フットライト設置

ハード対策

- ・サンビーチ～渚4工区間はT.P.+6.6mで防護(防潮堤+水門)
- ・和田浜南地区は新たな施設整備をしない

ソフト対策

【避難ビル】

- ・新規開発行為計画者に避難ビル登録を依頼

【情報連絡(事前準備)】

- ・津波避難計画作成
- ・防災ガイドブック(ハザードマップ)全戸配布
- ・避難行動要支援者避難支援計画(個別計画)作成

【情報連絡(発災後)】

- ・Jアラート(全国瞬時警報システム)
- ・Jアラート緊急割込み放送(FM熱海湯河原)
- ・緊急速報メール(エリアメール)による情報配信
- ・メールマガジン・FMラジオ・ケーブルテレビ
- ・同報無線デジタル化
- ・「災害用伝言ダイヤル171」の活用による安否確認

避難開始時間および避難時の移動速度を速める

(S-1-4)津波浸水想定区域起終点標識設置
(緊急時は車両を山側へ誘導)

(S-2-1)避難方向路面標示(モデル施工)

(S-1-1)国道135号への避難路(階段)の整備

(S-3-3)ソーラー式フットライト設置

(H-2)水門設置
(初川)

(H-2)水門設置
(熱海和田川)

(H-1-1)渚4工区以南新設
和田浜側から避難しやすい構造(景観配慮)

- 現況維持
- 既存施設のかさ上げ
- 新規施設整備(防潮堤等)
- ⊠ 新規施設整備(陸間)
- 新規施設整備(水門)
- 🏠 津波避難ビル
- ← 津波浸水想定区域外への避難方向
- 🟡 レベル1津波浸水エリア
- 🟠 レベル2津波浸水エリア

